

ななかま

No.98

2025 年夏キャンプ特集



2025年10月 秋号

夏キャンプの思い出	中村育成会長	2 頁
夏キャンプを終えて	田地団委員長	4 頁
指導者・保護者感想文（順不同）		5 頁
スカウト感想文・作文・スケッチ（順不同）		20 頁
訃報 今田 直人氏		46 頁

発行：日本ボーイスカウト東京連盟町田地区町田第 13 団 広報委員

- ※ 写真は BAND、13 団 HP、投稿から転載しました。
- ※ 作者本人の原稿通り記載してあります。一部の誤字脱字は修正しました。
- ※ 次回、No.99 号ななかま発行は来年 3 月ごろ予定しています。

2025 年 町田第13団夏キャンプ

2025年（令和7年）8月11日～16日

長野県東御市湯ノ丸高原 湯ノ丸高原ホテル

各隊の日程

団指導者	8月10日～16日
RS隊	8月11日～16日
VS隊	8月11日～16日
BS隊	8月11日～16日
CS隊	8月12日～16日
BVS隊	8月14日～16日



『夏キャンプの思い出』

育成会長 中村 孝志



「♪ おーおキャンプキャンプキャンプキャンプに行こうよ 素晴らしいキャンプ
こんな良いところはない 谷間の白いキャンプ〜♪」

出発前からまるで遠足を待つ子供のようにウキウキしながら、何度も口ずさんでいました。

今回は、ビーバーと一緒に先発隊の待つ 長野の「湯ノ丸高原」へ、電車、新幹線、バスを乗り継いでの移動です。

2泊3日のキャンプ行程を思い浮かべながら筆を執りたいと思います。

ご両親に連れられて、町田駅集合の時は緊張していたスカウトも、仲間と会うとすぐに打ちとけて、楽しくはしゃいでいました。

「佐久平」に到着し、バスでキャンプ場に向かう中、段々と気温が下がり標高 2000mの地は、20度でした。

酷暑の東京から脱出したー！！という感じです。

キャンプ地へ到着後、「池の平湿原」へハイキング、高山植物を観察したり涼しい湿原をゆっくりと進みます。途中景色の良い所では、スカウト達の「ヤッホー」が飛び交います。とても楽しげに得意げに皆なで山に呼びかけていました。

下山し、キャンプ地に戻ると夕食です。先輩スカウトが作ってくれた、なかなか手の込んだ料理で大満足です。

今回はスキー場のレストラナー棟を全部丸ごと借りているので、厨房機器も本格的で、料理自慢の先輩スカウトの腕の見せ所です。

次に、夜プロは星の観察で、ビーバーからローバーまで3班に分かれ、地べたに寝そべって流れ星を数えるゲームです。みつける度に、どこかで声がします。雲が流れてくると見えなくなったりしましたが、一生懸命目をこらして綺麗な夜空を見ていました。

翌朝はキャンプ地周辺を散策、虫をみつけて大騒ぎ、きのこを見つけて写真を撮るスカウト、何と無邪気な姿です。

2日目は各隊合同のBBQ大会です。先輩スカウトが盛りだくさんの料理で迎えてくれました。焼肉はもちろん、立ち釜で作った鳥の丸焼き、くるくると何度も丁寧に焼き上げた一品です。同じ鳥でもダッチオーブンで野菜と一緒に煮込んだ料理も野外ならではのです。1団の畑から頂いたとうもろこしやじゃがいも料理、ローバー隊長の流しそうめん、竹の中をそうめんがどんどん流れてきて上へ上への場所取りに大はしゃぎの様子。

すいか割りも、回りのなかまが大声で誘導するのですが、なかなかうまく行きません。割れたときには、すいかに群がって、手づかみで頬張って食べていました。

陽も落ちて来て、大きな広場に全員集合。スカウトもリーダーも親御さんも円を囲んでいます。真っ暗闇の中「火の神様」コール。

炎の鉄球が輪の真ん中めがけて鋭い早さで飛んで来て、キャンプファイヤーの始まりです。各隊の歌や踊りのスタンプはとっても面白く、特にどこかの隊長がせっかく作ったとん汁をひっくり返して、くたくたに疲れて山を登ってきたスカウト達に大ひ

んしゅくを買った物語はみんなの頭の中に決して忘れないことでしょう。全員でのぞうさんゲーム、猛獣狩り、チェッコリーでさらに盛り上がり、楽しい、ゆかいな大営火でした。

最後に、今回のキャンプで嬉しかったことは、榎谷隊長がとても優しく、勇敢で、素晴らしいビーバー隊長であったことです。

そもそも私は、息子がビーバー隊に入隊した時、夏キャンプで父親として参加したことがボーイスカウト活動をするきっかけでした。その時の隊長が、榎谷隊長のお父さんである今田隊長でした。あれから 27 年たって今、その娘さんが率いるビーバー隊とキャンプができる事は、とっても幸せなことだと思います。人のつながりの大切さをとても強く感じました。

今後も微力ながら、スカウト活動を見守って行きたいと思い、夏キャンプの感想といたします。



『夏キャンプを終えて』

団委員長 田地 司



振り返って見て、今年のキャンプは初めての試みが多く昨年の会津と比較しても様々なところで素晴らしいキャンプになったと思います。

まずは、湯の丸高原ホテルの便宜提供により、グレンデのレストラン棟を一棟貸してもらいBVSからRSまで参加スカウト全員が一所で過ごせたこと、またBVSとCSにとっては、一応(?)テント泊ができたことは楽しい思い出になったのではないのでしょうか？

スキー訓練に参加したスカウトには、冬と一変した夏の景色がきっと印象的だったでしょう。池の平湿原へのハイキングや湯ノ丸山への登山は天候に恵まれ達成感を得られたことと思います。またBS隊以上は、到着日から2日間はあまり天気が良くなかったですが、東京と比べて寒いくらいの気温だったことは、同じ日本でもこんなに暑さに差があることに驚いたことと思います。

団にとっても、今回は文科省のプログラムの助成を受け、資金的にもまたプログラムの的にも充実したキャンプになったと思います。8月10日の先発隊は、1団のハケ岳のキャンプ場でとうもろこしを収穫しキャンプ中の食事に提供できました。今回のBVS、CSの食事はVS隊が担当し仕入れから調理まで一切を仕切りました。とてもよく考えたメニューでスカウトも大満足だったでしょう。BVS部門はファミリーで参加してもらい、新しい保護者の方との交流が叶ったことは大きな財産となるでしょう。BBQや流しそうめんも天気に恵まれてみんな大満足だったでしょう。また今年は何と言っても最後に野外で営火ができたことです。RS隊が点火を成功させるべく何度も何度も火の玉を落として実験し、最高の火つけができたことで大いに営火を盛り上げることができました。各隊のスタンプも「スタンプ」らしい演出で久しぶりに火を囲んで楽しいひと時でした。

最後に参加スカウト、リーダー、保護者の皆さんに、なによりも事故なく無事に全プログラムを消化できたことに団として感謝いたします。夏の思い出を胸に抱いて、新年度のプログラムをみんなで盛り上げましょう。



『ビーバー隊だより』

BVS 隊長 桎谷 禎子

いつもスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

ビーバー隊の活動が充実し、大きな事故なく過ごせていることは保護者の皆様、そして指導者の方々、先輩スカウトのご協力があったからこそと感謝申し上げます。

一年間を振り返ると最初は2名でスタートした年度初めでした。しかもそのうちの一人は3月末までとのこと。どうなるか不安な気持ちがありましたが、「スカウトが楽しいと思ってくれる活動」を実践してきました。年度の途中から徐々にスカウトが増え、にぎやかな活動ができるようになりました。ゲストの方々に対して細やかな配慮をもってお声がけくださっている組長の皆様のおかげだと感謝しております。

今年行った隊集会の中では久しぶりに新聞紙ドームを行ったことが印象に残っています。BS 隊宮本副長にもご協力いただき、室内で大きな新聞紙ドームを作り、子供も大人も興奮しました。次回はさらに大きな集会場でもっと巨大なドームが作ることができたらいいなとひそかに思っています。

夏キャンプ、今回は5名のスカウトが参加してくれました。初めての宿泊プログラムを体験するスカウトが多く不安もあったかと思います。しかし天気に恵まれた中、ハイキングや星空観察、バーベキュー、流しそうめん、スイカ割り、大營火等、いつもの隊集会よりも長く濃い時間を仲間と過ごせたことはスカウトにとってとても良い体験になったと思います。スタンプを考えるとときも積極的にアイデアを出してくれたり、空き時間ができたときにはこれやってもいい？仲間たちと遊び始めたり、ハイキング中にいろいろな発見をしてくれたり、楽しい時間を過ごすことができました。仲間と過ごす時間を大切にしていること、他のスカウトの意見を大事にすることが伝わってきました。間近でスカウトたちの成長を見られることが指導者として関わっていてよかったなと思う瞬間です。また保護者の方々とお話しする機会も得られ、活動についてご理解いただいていることにとってもありがたい気持ちになりました。

隊長として2年活動し、ようやく自分のことを「隊長」と呼ぶことに慣れてきました。まだまだ至らない点多々ありますが、皆さんの意見も取り入れながらより良いビーバー隊にしていきたいと考えております。今後とも活動にご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。



『2025 年夏キャンプ便り』

VS 隊副長 本田 裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

今回の夏キャンプでは、ベンチャー隊はカブ隊とビーバー隊に食事を提供する責務を担いました。これは、スキー場のレストランを一棟借りでき、調理器具を自由に使えるとスカウトに伝えたところ、料理好きのスカウトが挑戦したいと手を挙げたことが発端でした。

事前の会議ではその活動を SDGs にからめてプロジェクトにつなげることと、メニューのテーマは世界の料理とすることまでは方向性を確認できましたが、細かい詰めができていませんでした。

決まったメニューのうち、作ったことがないインドカレーとフォーを事前に調理してみましたが、参加スカウトは 1 名のみでほかのスカウトはぶっつけ本番となってしまいました。

計画に至っては隊長にフォーマットを用意していただき、議長が作業分担したにもかかわらず、間際まで対応できていません。おかげで買い出しは混乱して最後まで食材の管理ができませんでした。

高校生という年代は多様化してきており、学校のスケジュールも合わせづらい状況です。個人の趣味嗜好や考え方もあるでしょう。思いのほか共同プロジェクトを進めるのは難しいのかなと感じています。

もう 1 点難しかったのが、ベンチャー隊が使う食材だけでなく、ボーイ隊、ローバー隊も一つの大きな冷蔵庫を使うことにより食材の在庫を確認するのが難しかった点があります。

メニューの検討時に世界の料理とするのはよかったです。食材がキャンプ地で手に入るかまでの検討ができておらず買い出しに車を出していただいた指導者に迷惑をかけてしまいました。

さて、ここまで苦言ばかりを呈していましたが、時間配分、食事の量とも問題なく提供できたのはスカウトの頑張りによるものです。

できたことは誇りとし、できなかったことは反省して改善していく作業を地道に指導していきたいと思います。



以上

偉そうなことを書きましたが、豚汁を台無しにしたのは私です。

『夏キャンプに参加して』

元RS隊スカウト 高橋 永

途中参加ではありましたが、約 25 年ぶりにボーイスカウトのキャンプに参加させていただきました。昔と比べると多少変化しているところもありましたが、多くの文化や伝統が受け継がれていることを感じる事ができ、とても懐かしさを感じました。

特に印象的だったのは、スカウトたちの自主性とチームワークの高さです。自分がスカウトだった頃は、指示を受けて動くことが多かった記憶がありますが、今回のキャンプではスカウトたちが自ら考え、行動し、仲間と協力して取り組む姿が随所に見られました。時代が変わっても、「自分で考え、仲間とともに行動する」というボーイスカウトの精神はしっかりと根付いているのだと感じ、非常に頼もしく思いました。

また、指導者側として参加したことで、裏方の安全管理や時間管理、時に厳しい視点での指摘など、指導者としての行動の重要性にも改めて気づかされました。プログラムの進行だけでなく、スカウトたちの体調や気持ちの変化にも気を配る必要があり、責任の重さを実感しました。しかしその分、スカウトたちが笑顔で活動に取り組み、仲間との絆を深めていく様子を見ることができ、今後に対する大きなやりがいと充実感を得ることができました。

夜のキャンプファイヤーでは、キャンプファイヤーの設営や、炎を囲みながら歌ったりスタンツに興じたりする時間がありました。懐かしい歌を口ずさみながら、過去の思い出がよみがえり、同時に今のスカウトたちと同じ時間を共有できることの喜びを強く感じました。世代を超えて受け継がれる伝統と文化の力を、改めて実感する瞬間でした。

今回のキャンプ参加を通じて、ボーイスカウトの魅力を再確認するとともに、自分自身も多くの学びと刺激を受けました。これからも、若い世代の成長を支える立場として、できる限り関わっていきたいと思います。そして、次回は最初から参加し、さらに深く関わることをできればと願っています。

最後になりますが、今回のキャンプに参加する機会をくださった指導者の皆様、温かく迎えてくれたスカウトの皆さん、そして裏方で支えてくださった保護者の方々に心より感謝申し上げます。皆さんのおかげで、懐かしさと新鮮さが入り混じった、かけがえのない時間を過ごすことができました。この経験を胸に、今後もボーイスカウトの活動に微力ながら貢献していければと思います。本当にありがとうございました。

高橋 永



『2025 年夏キャンプを終えて』

CS 隊長 甲田 秀行

皆様の支援のもと、スカウト達は怪我もなく元気に 4 泊 5 日間を過ごせたことに、感謝申し上げます。特に 4 泊 5 日、毎日の美味しい食事を提供いただいた VS 隊の皆様、ありがとうございました。

まず、我が、CS 隊のプログラムは、以下の通りでした。

8 月 12 日 新幹線で現地への移動

8 月 13 日 湯ノ丸山登山（ハプニング有）

8 月 14 日 池の平湿原へのハイキング

8 月 15 日 BBQ and 大営火

8 月 16 日 帰宅

湯ノ丸スキー場という大自然の中、のびのびと活動ができました。

スキー場の食堂をベースキャンプとして食堂の中にテントを建て、CS スカウト達はそこで寝泊りをしました。まさに秘密基地！スカウト達はワクワクが止まらないですよ！

総論としては、湯ノ丸高原の大自然の中、仲間と協力しながら夏キャンプを終えスカウト達は一回りも二回りも大きくなったと感じています。

今回のキャンプに参加した精鋭達は、くまスカウト：桙谷、孫、楽。しかスカウト：市川の 4 名での夏キャンプとなりました。

初日（12 日） 新幹線に乗る

玉川学園から大宮駅に移動し新幹線にのるというのが最大のミッションでした。

一泊舎営を含む公共交通機関での移動。全く問題なし。順調そのものでした。

13 日 湯ノ丸山を制覇する

前日より、食堂の中のテントで宿泊のため疲れているかな？と思いましたが疲れも見せずに湯ノ丸山の山頂までたどり着きました。登山ではスキー場の急斜面を登っていくという困難な道も難なくこなしてくれました。

しかし、トラブル発生！なんと昼ごはんの豚汁が食べられない。。。下山時にはお腹が少しすいていたかもしれませんが怪我もなく下山をしました。

※VS 隊に感謝の意を示すと共に、トラブルの詳細は割愛させていただきます。

14 日 池の平湿原を制覇

日本を代表する池の平湿原で植物の観察をしました。

15 日 スタンツで盛り上がるぞ

組長を中心に何度も練習しましたね。大営火本番でのスカウト達のスタンツは最高でした。

というように特に CS 隊ではトラブルもなく、夏キャンプを終えられました。

私は、夏キャンプの期間中、スカウト達の自主性を更に育むため、あまり口を出すことを控えておこうと考えて今回の夏キャンプに参加をしました。

結果、くまスカウト達は後輩スカウトと話しをし、協力をしながら活動をしていて感じています。スカウト達の成長を感じられる夏キャンプになったと思います。

『夏キャンプが終わって』

BS 副長 瀧本 敏夫

今年の夏キャンプは長野県東御市新張に有る湯の丸スキー場のレストラン棟で行われました、昨年と違いとても涼しく良い活動ができたと思います。

私はボーイ隊副長ですが今回は野営行事委員として参加しました。（野営行事委員とは裏方として皆さんの支援を行う活動です）活動としては 1 日早く現地入りして、2 日目、ハケ岳に有る 1 団のキャンプ場の畑にてトウモロコシ、じゃがいも、長ネギの収穫をさせていただき、今回皆さんの食事の一部とさせていただきました。1 団の皆様には感謝申し上げます。1 団も夏キャンプ実施していて、数多くのゲストの方と楽しく活動をされていました。1 団は私が子供のころ所属していた団です、今も多くのスカウトと活動されているのを見てうれしく思います。

2 日目 BS,VS,RS が揃い、活動開始です。

私は VS の買い出しに何度か同行しました、今回 VS はプロジェクトとして CS,BVS 隊の食事作りをテーマに沿って提供することです、私が見る限り内容がかなり凝った物で、食材も探すのにかなり苦労していました、ですが手に入らないものは一から作ってでも提供する姿勢は大したものだと思います。

4 日目(ボーイ隊としては 3 日目)湯の丸山、烏帽子岳登山、ボーイ隊に同行しました。かなりガスが出ていてあまり視界が良くなく、たまに視界が開けると美しいものが見えました。私は体力的にはかなり落ちていてスカウトのペースに追いつけなく皆さんに迷惑をお掛けしました。

5 日目、ボーイ隊蕎麦作り、餃子作りに参加、蕎麦、餃子の皮は RS 協力のもと製作、始めてにしてはとても上手に出来たと思います。蕎麦はきしめんのような太さ、茹で時間とかが難しかったようです。おいしくいただきました。

夜、ナイトセクションで天体観測、ペルセウス流星群の流れた数を縦割り班でゲーム方式で観測、一番多く見つけたチームが勝ちというゲームをしました。この観測の仕方は私が高校生だったころ仲間と実際にペルセウス流星群の数を数えることを応用してゲーム方式にしたものです。当時は仲間内 6 人で東西南北方向に寝て、記録係と時計係に分かれて一晩中 8 月 12 日～14 日に観測しました記録は時間、流れた方向、明るさ等です、昔に戻ったみたいで感動しました。

6 日目、バーベキュー、スイカ割、流しそうめん、大営火

7 日目、帰路

今年の夏キャンプは 0 日目資材積み込み含めて長い活動となりました。

キャンプ場提供下さった湯ノ丸高原ホテルの方々に感謝申し上げます。

私事で申し訳ありませんが

2025 年 9 月の上進式をもちまして 13 団の指導者を退任させていただきます。

私は 1999 年秋、息子と 13 団にお世話になり、翌年 2000 年カブ隊の副長として指導者を続けてまいりました。当時私は写真係をさせていただいていたのですが、当時のクマスカウトが、瀧本さん私たちの指導者になってくれませんかと推薦され今に至ります。

指導者歴としてはカブ隊副長 5 年、ボーイ隊 1 年、ベンチャー隊 15 年、そしてボーイ隊 2 年、途中海外赴任が 1 年あり抜けていますが楽しく指導者をさせていただきました。

今までありがとうございました。

この秋より野営行事委員としてすべての隊のバックアップをさせていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。



『この 1 年間を振り返り』

2025 年 9 月

VS 隊 隊長 永山 雅人

私自身が、この 1 年間のベンチャースカウトの活動を振り返ってみました。
感想とスカウト諸君に対してメッセージを伝えます。

山に行ったことは自慢できる

高校生で雪山でのキャンプ、さらに厳冬期に 2700m を超えるピークに到達。分かる人には絶対に伝わるその凄さ。他人への自慢だけでなく、自分自身の自信と思い出として持ってもらえたら、それをサポートできた身として光栄です。
異世界の中での経験や感じたことを日常生活にフィードバックできたら、日常生活も輝くはず。

できない理由より、できるための条件を提示せよ

新しいことを始めるということは、失敗する可能性も含まれているということ。失敗しそうな時、できないと諦めた瞬間、全てが終わる。例えば “時間が無いからできない”、できない理由をつけて、自分を守ることより、“あと 3 日間あれば出来るんです” と、出来るための条件を出せることのほうが大切。条件を出せるならサポートもできる。

アウトプットを出せ

自分では色々考えて行動していると思っていても、それが外に伝わらなければ、残念ながらゼロと同等です。

“色々努力して、考えてたんだけど、結局自分にはできなかった” と言葉だけで言われても外からしか見ることができない他人から見たら、何もやっていない人と同じです。だからこそ、形として出すことが大事です。

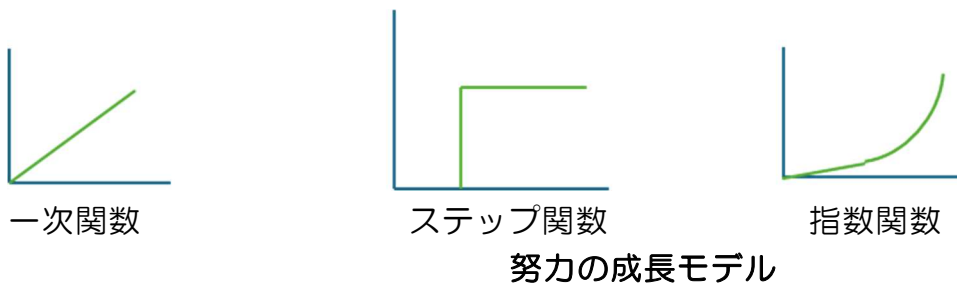
例え失敗したとしても、下手でも、何かしらの結果を出した人のほうが評価されます。

努力の結果は突然出る

練習すると時間の経過と共に少しずつ上手になるものもある（数学の世界では一次関数）。しかし、全てのことがそうなるわけではない。

たとえば、逆上がり。何度やってもできない時は、結果としてはゼロの状態。しかしながら、努力を続けると、突然 ぐるんと回る時が来ます。更に不思議なのは、一度できるとウソみたいに失敗せずに回れる。

これを数学の世界ではステップ関数と呼ぶ。ゼロから一気に 1 になり、ゼロには戻らない。人で言うなら、出来るようになったら、もう怖くならない。
補助なし自転車もその一つ。



ある時からグッと効果が出る

たとえば、赤ちゃんが喋るようになるや英会話ができるようになる。それまでは、あ〜あ、うーうー、つかえながらの喋りだったのに、あるところから自然に喋ることができるようになる。

たとえば、あっちの場所への行き方。そっちの場所への行き方。最初は1つ1つ独立していた目的地が、何度か行ったり、通過したりしているうちに、頭の中に全体の位置関係の地図が急に出来上がってきて、直接は行ったことの無かった、あっちの場所からそっちの場所へも問題なく行けるようになったりする。

急激に数値が上がっていくことを数学の世界では、指数関数と呼ぶ。

もしステップ関数のゼロの時点で諦めてしまったら、結果はゼロ。もう少し頑張れば1(100%)になったのに。

人により出来るまでの時間の長さは違う。しかしながら、努力は実を結びます。諦めずに、できないのを言い訳せずに、やり続けてください。

一歩踏み出せ

大切なのは、「今できること」じゃなくて、「これからできるようになること」。君たちが一歩踏み出すたびに、君たちの世界は少しずつ広がっていく。できないと諦めるのではなく、できるようになるための方法を見つけることや努力を続けることが大事。

4人それぞれの個性が出てきた。

ベンチャースカウトとしての実際の活動が始まった高1の春には、先輩である高3生は受験段階、高2はいない状態。先輩からの申し伝えを受けられず、ゼロからのスタート。それから1年半近く経ち、やりたいと思うことがそれぞれ見えてきたと感じる。

ただし、この後、大切な受験期を迎えるスカウトもいる。やりきれなかった分はローバー隊で叶えてほしい。受験の影響が少ないスカウトは、引き続きやりたいことを突き詰めて欲しい。

どちらにしても、努力は惜しまず、続けることこそ夢・希望を実現する最大の手段だ。

この後のさらなる飛躍を期待します。

以上

『夏キャンプに参加して』

BVS 副長 齊藤 雅彦

2025年度の夏キャンプには、十数年ぶりにフル参加となりました。

ビーバー隊が参加するまでの3日間は、野営行事とボーイ隊の支援を行いました。野営行事では、ベンチャー隊スカウトのバックアップとして食事の給仕のお手伝いをさせていただきました。ベンチャースカウト達も大人数分の料理を作る難しさを身をもって体験したと思います。

ビーバー隊が到着するまでの期間は、ボーイ隊の支援で烏帽子岳への登山を、カブ隊支援で見晴岳経由で池の平湿原まで登山を行いました。

どちらもスカウト達は、元気よく活動していました。

池の平湿原にてビーバー隊と合流して、湿原を散策したあと、歩いて宿舎の「フレンズ」まで戻りました。

スカウトは、自分たちだけのテントに入って、仲良く場所とりをしました。

スカウトだけの宿泊でしたが、けんかもせずに楽しいキャンプになりました。

翌日は、BBQ 大会と流しそうめんでおなか一杯になり、空いた時間を使って夜のスタンプの練習や割りばし鉄砲を作った的当てをしたりと有意義な時間を過ごしました。夜の営火は、初めて参加したスカウトや保護者の方も楽しんでいただいたようです。

最終日は、ホテルでカレーを食べて全団みんなが乗った大型バスで町田まで帰ってきました。

このキャンプで仲間との活動の楽しさを知る良い経験になったことと思います。



『夏キャンプを終えて』

RS 隊長 木村 孔紀

皆さんにとって夏キャンプとはどのようなものでしょうか。一年の集大成としての役割が大きかったり、最も長期で全隊が揃う唯一のキャンプという捉え方もあります。RS 隊にとっては数少ないキャンプの機会となってしまうています。大学生年代の彼らは大学生活やアルバイトなどで急にできることの選択肢が増えて、ボーイスカウト活動に充てる時間は以前よりも短くなってしまっているのでしょうか。

今回の夏キャンプも RS 隊は少人数の活動となってしまいました。しかし、内容自体はこれまでの夏キャンプに劣るものではありません。BS 隊の登山支援や野外調理指導、キャンプファイヤーなどの全体行事の仕切りなど最上級スカウトらしい姿を見せてくれました。

私にとって夏キャンプは、他の隊のスカウトとも交流が増やせる機会でもあります。いずれ RS 隊に上進してくるスカウトたちを知ることで、これから RS 隊はどんな活動が増えていくのだろうかと思いを馳せています。特に BS 隊で基礎を学び、VS 隊で各自でテーマを立てて活動することによって、スカウトは各々が得意な分野や興味のある分野が分かってきます。そういった分野をぜひ大切にして、RS 隊に上進して更に磨きをかけ、後輩スカウトの指導に役立ててほしいと思います。今回のキャンプでは、VS 隊の頃は登山が得意な印象だったスカウトが、RS 隊となり積極的に調理の計画を立てたり、BS 隊の調理指導をしてくれるなど新たな一面を見ることができました。おかげで私はキャンプ中毎日美味しい料理を振る舞ってもらいました。

今回のキャンプは各隊スカウトが今までの経験を活かしながら、初めての挑戦も多数ありました。一方で団としても今回の夏キャンプからゆめ基金という制度を使い、資金的に余裕のある活動ができるよう色々模索したキャンプとなりました。これからも、スカウトがより多くの学びや挑戦の機会が得られるよう指導者として尽力していきたいと思います。末筆にはなりましたが、今後ともスカウト活動へのご理解ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。



『夏キャンプを終えて』

BS隊長 廣石 透

今年の夏キャンプは、初めての開催場所でしたが、初日・二日目の大雨を乗り切り、大きな怪我なく計画したプログラムを無事終了することができました。ご支援いただいたリーダーの皆様、他隊のスカウトの皆様、保護者の皆様、誠にありがとうございました。ボーイ隊は菊スカウト 3 名、2 級 1 名、初級 2 名の総勢 6 名が参加しました。

初めて夏キャンプに参加したスカウトにとっては、親の手から離れ 1 週間の夏キャンプを経験したことは一生の記憶に残るのではと思います。朝起きられないのでは、あるは、みんなに馴染めるのかな、と心配していたスカウト達も、先輩たちと集団生活をしていくなかで、どうしたら先輩のようになれるか、先輩たちの動きを見様見真似でやってみて、次第にできることが増えていきました。「わからないことを誰かに聞く」、「自分でもできることがある」、「もっといろんなことを先輩から学びたい」と好奇心に溢れ、日に日にスカウト達の顔が自信に満ちた顔つきに変化していったのが印象的です。このようなとてもよい変化を見せた理由は、今回 3 名参加した菊スカウト達の影響が大きいと思います。菊スカウトは最後の夏キャンプということで、経験少ないスカウト達を育てることに重きをおき、全体を把握し率先して班をまとめていきました。A 型テント設営・タープ設営・たちかまど作成・調理など、単に指示をするだけでなく、自らが実践し、背中を見せながら教えていました。ここ数年間菊スカウト達を見てきましたが、この夏キャンプでは、「プログラムの先を読んで行動する」、「後輩をチームとしてまとめる」、ということ意識し、責任感をもって行動できており、成長した姿を見て感動しました。

今回の夏キャンプは、事前に関催した隊集会でスカウト達が議論し、「食事にこだわる！」というテーマを設定しました。具体的には、4 日目の 1 日かけてこだわりの食事を作りました。（朝に「アヒーショ」、昼に「手打ちそば」、夜に「皮から作った餃子」）アヒーショは「朝から油っこすぎる」という意見もありましたが、「人生で初めて食べたがうますぎる！」といった声もあり賛否両論でした（笑）。昼の手打ちそばは、VS 隊の木下スカウトのご指導の下、そば粉からそばを作り上げることができました。木下先生作とは異なり、うどんのような太さのそばでしたが（笑）。夜は今田リーダーのお母様の門外不出「秘伝の餃子の皮レシピ」を今田リーダーから直伝いただきました。皮がくっついてしまう事件もありましたが、巨大餃子を作成することでうまく回避し、我々リーダー用の餃子まで作成してくれました。この経験は単に美味しいものを作ったというだけでなく、企画・作成・評価まで、最初から最後までスカウト達だけで実施したことに意味があります。未知のことへチャレンジし、やってみた結果を評価して次に繋げる、このようなプロセスを体験できた素晴らしい＆美味しい企画でした。

最終日の 5 日目は、バーベキューの設営・食事提供をボーイ隊が担当しました。BVS 隊や CS 隊のスカウト達の安全に気を配りながら、楽しんでもらうようがんばっていました。夜のキャンプファイヤーでのスタントも立派でした。山登りの際の「豚汁消失事件」を早速ネタに使っていて大いに笑わせて頂きました。

来年度は菊スカウトが3月末まで上級スカウト・その後ベンチャー隊へ上進、くまスカウトの2名がボーイ隊に上進します。夏キャンプ4日目夜にくまスカウトとテントと一緒に寝て仲良くなったと思うので、来年度は新しいメンバーで一致団結して楽しんでいきましょう！

最後に、ご支援いただいた皆様、このような素晴らしい夏キャンプを経験させて頂き誠にありがとうございました。引き続き、スカウト活動へのご支援をよろしくお願いいたします。



『夏キャンプ』

BS隊副長 増田 和男

今年の夏キャンプは湯ノ丸高原のスキー場で行われました。私自身、これまで何回もキャンプに参加し、数多くの地域で実施されてきましたが、近年、多くの県立青少年宿泊施設が廃止となり、13団のキャンプ実施場所がなかなか見つからない状況の中、今夏はスキー場というロケーションを選んで頂きました。スキー場での夏キャンプは過去に一回あり、そこは新潟県に有り、スキー訓練として実施した場所で、今回とよく似ています。その時は活動場所が限られていたせいもあり、満足な設営ができなかったと記憶していますが、今回は舎営場所のすぐ近くに広大な広場を使って設営が可能でした。

BS隊の夏キャンプはこの何年かは新型コロナの為、個人テント・ドームテントでの野営が主流で、久しぶりにA型テントでの野営を実施しました。スカウトなかま同士が協力して設営する大型のテントはやはりボーイスカウトの原点と感じました。

設営初日と二日目は雨模様でしたがBS隊プログラムの活動は、これまでの夏キャンプと異なり標高は過去最高の1800mの高所に有り、朝晩は寒いぐらいの気温また、日中は快適な温度が保たれ、スカウト達は山登り、天体観測、BBQなどで充分満足することができたと思います。

この場所を提供して頂いたホテル所有のレストランを舎営場所（BVS、CS隊）として使用させてもらい、なおかつ、厨房、コンロ、炊具も自由に使うことが出来ました。そこではVS隊、RS隊スカウトが炊事を行い舎営組の毎食の食事を提供して、なかなか好評だったようです。

BS隊の5泊6日があっという間に過ぎ、自身37回目の夏キャンプが無事終了しました。来年は日本スカウトジャンボリー（19NSJ）が実施されますので、また、変化に富んだ夏キャンプになることを期待しています。



『夏キャンプの感想』

ビーバー隊 保護者 中田 佐知

さ 3度目の宿泊参加
し 信頼している隊長、リーダー達
す 素晴らしい町田 13 団の仲間と共に
せ 成長するのはスカウトだけではない
そ 空には満天の星空、老眼でイマイチ
た ただぼやけた空を眺めたけれど
ち 挑戦したいという気持ち持って
つ 常に前を向いて進むスカウトたちに
て 手を差し伸べつつ、時に離れて見守り
と 共に歩んでいきたいと思う

『夏キャンプの感想』

ビーバー隊 保護者 ローカムサイ チンダー

ボーイスカウトに入団してから約 3 カ月が経ちました。いつも子どもたちのため、楽しく工夫された活動を企画していただき、心から感謝しています。

今回の夏キャンプでは、息子と共に本当にたくさんの思い出を作ることができました。自然の中での探検や星空観察、キャンプファイヤーなど、日常生活ではなかなか体験できない活動を通して、子どもたちが自然とふれあい、新しい発見や学びを得られたことはとても貴重な経験だったと思います。また、バーベキューや流しそうめん、スイカ割り、BS 先輩方の手作りご飯など、仲間と協力しながら楽しむ時間は、これからの成長に必要な社会性を自然に身につける大切な機会になったと感じました。

3 日間のキャンプを通して、息子は多くの発見をしましたが、同時に私自身も、息子の成長や楽しんでいるときの素顔を改めて知ることができました。

これからも親子で活動に参加できることを楽しみにしています。



『夏キャンプ体験記』

ビーバー隊 保護者 中嶋 理人

今回息子の悠人とふたりで初めて夏キャンプに参加させていただきました。参加に向けては事前準備の段階から「行く、行かない」騒動で指導者の皆様にはご迷惑ご負担をおかけしましたが、榎谷隊長からの優しいお声がけや、隊の皆様のアットホームな雰囲気に触れる中で、最終的に本人としてもキャンプに参加する決意を固め一歩を踏み出したことで、結果として大変楽しく貴重な経験を得ることができました。

「ビーバー隊の他の子たちともこれまで以上に距離を縮めて仲間意識が芽生え始めたこと」、「1泊目では難しかった母親抜きでのテント泊も2泊目には息子なりに克服し乗り越えられたこと」、「キャンプ生活で優しくしてもらったカブ隊の先輩の姿をみて“カッコいい、先輩みたいになりたい”と憧れる存在を持つことができたこと」など、キャンプ活動を通じ息子が成長する様子を間近で見ることができました。また今回の夏キャンプ、息子はもとより、父である私自身も大いに楽しませて頂きました。営火では保護者である我々まで巻き込んで頂き、父子ともに団の仲間として受け入れて頂いたことを大変うれしく感じております。

キャンプ終わり際に指導者の方々がスカウト向けに伝えられていた指導内容に習い、私も保護者として今後に向けた改善点を2点記しておきたいと思います。

1つ目は、息子から少しずつ手を離していくということです。夏キャンプをはじめスカウト活動に参加させて頂く中で「既に息子自身はマイペースながらも、集団の中で活動する力をしっかりつけているんだな」「そのペースについていけないのは親の私の気持ちの方かも知れない」ということをしみじみ感じました。私自身、過保護気味なこともあり、これまでたっぷり甘えさせて育ててきましたが、親として“目は離さずも手を離していく”ステージに入ってきていることを再確認しました。今後の隊集会では息子が隊長やリーダー、団の仲間のなかに飛び込んでいくことをこれまで以上に積極的に促していきたいと思います。

2つ目は、私自身ももう少し幅広くスカウト活動に関わっていくということです。例えば、指導者の方々はキャンプ期間中も役割や仕事が多く、写真を撮る余裕が一番あるのはビーバー隊の保護者であるということに気づきました。今年の夏キャンプでは正直、息子の所属するビーバー隊にしか目を向けられていませんでしたが、次回以降団全体の活動に参加した際は今回の経験/反省を活かし、ビーバー以外の隊のスカウトや指導者の方々とも積極的に関わり、皆さんの写真をいっぱい撮るなど、ささやかながら役割をもって活動に参加していければと思っています。

最後に、あらためて指導者の皆様には「普段から家族のように、時に優しく時に厳しく息子に接し、成長をご支援いただいていること」、「親として提供してあげたいと思いつつもなかなか難しい貴重な体験を、入念に準備計画して提供いただいていること」に感謝申し上げたいと思います。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

『夏キャンプについて』

BS 隊バイソン班菊スカウト 佐々木 海利

今回の作文はいつもと違い、これまでの一週間の思い出しながら書くので少し拙い文になると思います。僕は、八月十一日から、十六日まで、約一週間のキャンプに参加しました。月に一度行っている普段のキャンプでや、今までの隊集会で学んだことを存分に活用して、行動することが求められました。今回のキャンプでは、僕や他二人の菊スカウトにとっては、初級のころから積み重ねて経験を活かせるとても有意義な時間だったと思います。ボーイスカウトとして夏キャンプに参加することはこの先もう無いので、今までの集大成として、これまでの四年間を振り返ることができました。キャンプの一週間は長く感じられてもボーイ隊として活動した四年は風がふきぬけるようにあっという間でした。隊長やリーダーの指示をあおいて自ら動く自分達と、経験が浅く、知識も少ないなりに考えて学ぼうとする後輩達の姿を見て、少し前まで自分の事を支えてくれた先輩すばらしさを改めて実感しました。

菊スカウトに上進してから、常に活動する際は「模範」という言葉が僕の頭で頻繁に浮かびます。今回のキャンプでは、自分の菊のスカウトとしてのモットーである、「良い模範は、自らが学ぶ姿勢をおしみなく見せる物だ。」ということを実践するために、積極的に、他人の意見や考えをとり入れ、自分の血肉とする努力をしました。過去に自分がそうしてもらったように、僕の後輩達に少しでも影響を与えていたら良いなと思います。自分自身、今回のキャンプはほめられるべき点だけではなく、責任感のうすさを実感させられる場面も多々ありましたが、ここで得られたリーダー、隊長、先輩方の前向きな意見や厳しいご指摘は、これからの僕の全身に大きく役立つ物になると思います。

また、コロナウイルスが猛攻をふるった時期を経て、ボーイ隊は一時期人員不足の危機にさらされましたが、最近また初級スカウトの人数が増えてきており、自分としても今までの活気がもどってきているような感じがして安心しました。前述したように彼らは経験こそ少ないものの、周囲から学びとれることは積極的に自分の物にしようとする姿勢が見られ、僕達がいなくなった後でも立派なスカウトとして、これからのボーイ隊を支えていける存在になると感じました。だからこそ、僕たちは菊スカウトとして、限られた時間をムダにしないよう、自分が学んできたことをさらに昇華させて、継承することが重要だと思います。

この先は僕たちではなく、彼らがボーイ隊を主に盛り上げていく時期になります。僕がボーイスカウトとしてすごし、得た知識や見識を彼らにも、自分の肌で感じてほしいと思います。今回の夏キャンプは、自分の役割を再確認させられる、とても良い時間でした。この活動を支えてくれたリーダー方にもう一度大きな感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。

『夏キャンプ作文』

BS 隊バイソン班菊スカウト 荒 旬之輔

今回の夏キャンプはボーイ隊として最後の夏キャンプであった。ボーイ隊は六人に人数が増えての色々な作業も素早くできたと思う。天気は初日、二日目と大雨で設営が大変だったが、三日目の登山の日は晴れてよかったと思う。去年の夏キャンプは移動にすごく時間がかかって大変で、何時間もつり革を掴んで耐えていた。帰りなんかみんな爆睡していて今回もそのようにならぬよう願っていたら、今回は新幹線だと聞き、とても安心した。僕は班長だったので責任を感じていて、いつも時間を気にしていた。時間がおくれてしまうと、スカウト会議で僕はどうになってしまうのだろうか、と毎晩緊張してばかりだった。中でも大型工作の組み立てる順番を決めることを任された時は、あまり自信がなかった。しかし他の菊スカウト二人と話し合い、計画し、みんなで協力して大型工作を完成させたので、リーダーの皆さんと先輩や他のボーイ隊に感謝したい。何度かボーイ隊で班長担当したことはあったが正式に班長をやったことはなく、カブ隊の時の組長以来の班長であったので少し緊張もあった。だから、行く前は「五泊六日って長すぎだろう」と感じていた僕であったが、班長になってみると「やばい時間大丈夫かな」とか「次は何をやらなければいけないんだっけ」などといつも思っていた。忙しく感じていたことが多く、気が付いてみると「もう最終日か」と思ったことがあった。だから五泊六日はあっという間に終わってしまった感覚である。そのあっという間の数日の中でも、ボーイ隊として最後の夏キャンプを楽しく終えられたと思う。

僕はキャンプの前はあまり部活に行っていなかったうえに、久しぶりの登山で怪我が心配で、登山後は少し足が痛くなったが登っている時の景色はその痛み忘れるほど眺めが良かった。僕が初級のころに登った瑞牆山と金峰山よりかはとても楽であった（瑞牆山と金峰山はレベルが違った）。しかし頂上付近になると、思ったより岩場が多く体力を使った。この時は、「足が痛くても大丈夫だ。美味しい豚汁が待っているぞ」と自分に言い聞かせながら登った。その後ご飯を食べる場所に戻ってくると僕の気持ちは「待ってました」と楽しみになった。しかし僕たちにとても悲しいお知らせが待っていた。カブたちが豚汁をこぼしてしまったのだ。詳しい説明を聞いたところ、ただこぼれただけではなさそうだ。ほぼ全て無くなっていたのだから。おそらく津波のように流れたのであろう。この話を聞いた時はみんな絶望していたが、仕方がないのでみんなでおいぎりを食べた。僕は豚汁を作ってくれた本田リーダーを決して悲しませたくないのでスタンプのネタにしてしまったことは少し反省している。

ある晩のスカウト会議のあとにリーダーの方々が「ちょっと来て」と言って僕たちを連れて行った。僕と廣石君と海利君でお互い顔を合わせて「オワッタ」と言い、怒られるのではないかと思いながら、恐る恐るついて行った。しかしリーダーはなんとアイスを持ってきたのだった。何時間もかけて買い出しに行ってきた隊長やリーダーの皆さんに感謝したいと思う。

初日と二日目は大雨で、その後数日も土砂降りではないものの、パラパラと降っていた。初日の夜から少し変だなと思っていたことがあり、それはグラウンドシートの内側がとても湿っていて水たまりができそうになっていたことだ。僕は今回「ハリー

ポッター」と「ロード・オブ・ザ・リング」の本を持ってきていて絶対に濡らしたくなかったのですぐにビニール袋に入れて嚴重に保護した。しかし二日目の夜、もう一度グラウンドシートを確かめてみるとやはり湿っている。その後はあまり雨が降らなかったのよかったが、なにか変だとはずっと思っていた。その湿っていた原因は撤営の時に分かった。なんとポールの真下のグラウンドシートの部分に穴が空いていたのだ。「まあ何十年も使ってるならおかしくないかと僕は感じた。「そろそろ新しいテントくらい買い替えても良いのではないかと」思ってしまった瞬間であった。

今回は班長という役割でリーダーシップについて多く学んだキャンプであり、ボーイ隊の全員が協力したことによってとても良いキャンプになったと思う。九月からは野球部も硬式に変わり、大変だと思うが両立して頑張っていきたい。最後に今回のキャンプの運営に関わってくれた団委員長、隊長、リーダー方などに感謝したい。





『夏キャンプ作文』

BS 隊バイソン班 2 級スカウト 佐々木 大和

この夏キャンプはとてもじゅうじつしたものになりました。まずキャンプ地に行くまでに電車、新幹線、バスに乗りました。とくに、新幹線は最高でした。キャンプ地に着いてからはすぐに設営にとりかかりました。今回リーダーのほさがあったものの、手順がわかっていたのでコツコツとスムーズに進み、とても良かったと思います。食テンをたてる時に、地面が固く、ペグがふかくささりませんでした。そのせいで後に大雨が降った時にはかなり困りました。大型工作では、前回とはちがい、自分も参加しました。頑丈に縛ることが出来て、工作もかなり丈夫に作ることができました。登山では最初はかなりきつかったですが、後から山道になると楽しくなり、スイスイと登ることが出来ました。そうして見事山頂につくことができ、その時は嬉しさと達成感で心が満たされました。

四日目にはそば粉からそばを作りました。木下先輩のわかりやすいコーチのおかげで、とてもおいしいそばを作ることができました。しかし、朝と夜には大きな失敗をしてしまいました。朝には、朝からアヒージョという重い物を胃に入れることになってしまいました。油まみれのパンを食べるのは正直かなりきつかったです、、、これからは、その時の事を考えてこんだてを立てようと思いました。夜はギョウザだったのですが、打ち粉が少なかったせいか、皮どうしがくっついてほとんどが使い物になりませんでした。食べ物は、細かい事一つ一つに気をくばらなければいけないことを思いしらされました。

五日目はバーベキューで、自分は後輩をまとめてながらも積極的に動くことができました。みんながよろこんでくれて嬉しかったです。撤営も、設営同様スムーズに進み、はやくおわりました。

最終日には屋内でねました。とてもかいてきで、家のありがたさを味わいながらゆっくりねました。最終日の朝は気持ちよく起きられました。カレーを食べ、貸切観光バスで帰りました。

このキャンプはすごくすごしかったです。虫もいず、自然ゆたかで、広くて。

反省点もあれば、楽しいこともたくさんありました。この夏キャンプでの経験を生かして後輩からそんけいされるようなスカウトになりたいです。また、こんごのキャンプや生活の中でも生かしていきたいです。



『夏キャンプ作文』

BS 隊バイソン班初級スカウト 佐藤 翔太

今年の夏、ぼくは五泊六日のキャンプに参加しました。山に囲まれた自然の中でスカウトやリーダーといっしょに過ごす時間は、とても新鮮で楽しいものでした。ふだんの生活では味わえない体験が多く、朝から晩まで充実した時間を過ごすことができました。自然の中ですごすごすることでスカウトと協力する楽しさや自分で考えて行動する大切さを実感することができ、キャンプに来て本当に良かったと思いました。ここでは特にいんしょうにのこった出来事について順に書いていきたいと思います。

二日目は大工作をしました。みんなで力を合わせて作業を進めていくうちにだんだん形になっていくのがとても面白くて、完成したときは大きな達成感を味わいました。そのあとの自由工作で竹を使って弓矢を作りました。これはおまけのような活動でしたが自分で作った弓矢を飛ばすのは楽しく、友達ときそいあいながらもりあがりました。

三日目は登山に行きました。山道は思ったよりも険しく歩いているだけでかなり体力を使いました。途中で足が重く感じることもありましたが、友達とはげまし合いながら少しずつ進み、頂上についたときには大きな達成感がありました。下山した後は楽しみにしていた豚汁がありましたが、リーダーがこぼしてしまい、僕たちは一滴も食べられませんでした。残念です。

四日目は食べ物づくりと天体観測の活動がありました。昼間はそばをうったり、アヒージョを作ったりしました。自分で作った料理は特別に美味しく感じられて、仲間と食べる時間もとても楽しかったです。そして夜には天体観測を行いました。山の夜空はとても暗く、たくさんの星を見つけることができました。夏の大三角やいくつかの星座も見つけられとても感動しました。天の川ははっきり見えませんでした。空いっぱい輝く星をながめながら自然の大きさや美しさを感じることができました。



五日目はバーベキューをしました。炭に火をつけて肉をやく作業は少し大変でしたが、いい感じに焼き上がった肉はとてもおいしく、みんなで食べるとさらに楽しく感じました。準備や片付けを通して協力することの大切さを学ぶ仲間との絆も深まった気がしました。

そして最終日いよいよキャンプの終わりです。帰りのバスは乗り心地が良く、安心して座っていけました。窓の外を眺めながらこの五泊六日の出来事をおもいだし、また参加したいと思いました。

今回のキャンプでは楽しいことも大変なこともありました。でも、その全部が大切な思い出です。建物づくり、きつい登山、豚汁、夜空いっぱいの星、BBQ の肉、そして最後のバスの時間。ひとつひとつの出来事が心に残り、これからもずっと忘れられない宝になると思います。

2025 年 8 月 15 日 BBQ 大会



『夏のキャンピング』

BS 隊バイソン班初級スカウト 宮下 晴翔

はじめて夏のキャンピングにさんかしました。

湯の丸山に登りました。湯の丸山は、とてもあしбаがわるかったから、たいりよくしょうもうがはやかた。湯の丸山をのぼってるときに牛にあいました。さいしょ牛がかんできたり、とっしんをしてくるじゃないか、ないしんこわかったです。

牛をはじめてみました。おおやまと湯の丸山もレベルがちがった。おおやまはあしбаがふみやすかった。くらべて湯の丸山はあしбаがわるくふむばしょがわるかったり、いしがくずれやすかった。

やまのぼりはとてもつらかったけどいいたいけんができました。



『カブ隊最後の夏キャンプ』

CS 隊 1 組 くま 柎谷 唯人

ばくは今年で上進するのでカブ隊の最後の夏キャンプとなりました。

1 日目は新幹線で長野まで行き、シャトルバスでキャンプ地へと行き、着いたら開村式を行いました。その後は舎営準備をし、閑時作業で新聞づくり、ロープワークを行ないました。夕食準備をして夕食をとりました。1 日目の夕食はハンバーガーと枝豆コーンとポテトを食べました。ベンチャーとローバーの先輩が一から作ったことに驚きました。

2 日目は山登りがありました。朝食後に登山の準備をして湯ノ丸山に登りました。登る途中で牛がいてびっくりしました。山頂についたら少し休憩を取りました。そこから下山をはじめ、秘密のご飯を食べる場所につきました。順調に豚汁にできていたころ、本田リーダーが振り返ったら・・・豚汁がまっさかさまにこぼれていました。そのあとは豚なしの豚汁を飲み、昼食をとりました。そこから順調に進み宿舎に帰れました。今回の山登りで僕は2000メートル超えの山に初めて登りました。山頂は涼しかったです。宿舎に戻ってからはスタンプの準備、閑時作業で新聞づくりをしました。そのあとに国旗降納があり、閑時作業の続きをしました。この日の夕食はフォーでした。初めてフォーを食べました。おいしかったです。なかなか食べることの無い料理を作ってくれたベンチャー隊はすごいと思いました。ナイトゲームは「殺人光線」を楽しみました。初めてやったゲームで光に当たらないようにとまるところが楽しかったです。夜の今日の振り返りで明日からはビーバー隊が来るので、カブ隊はビーバー隊のお手本になる行動をとるということを決めました。

3 日目の朝ごはんはガーリックオニオンソースがかかったハンバーグでした。この日の朝ごはんでは食べたハンバーグの種類は違うけれど1 日目の夜ごはんのハンバーガーを入れて食べたのは3 個目でした。池の平湿原に向かう途中に山を一つ登って行きました。池の平湿原は高山植物が豊富でした。池の平湿原からは自分たちより年下のビーバー隊と合流をしました。ビーバーよりも先に宿舎に戻りました。宿舎までは1 時間もおかからずに戻れました。宿舎に戻り閑時作業で新聞づくりやスタンプのセリフ練習などをして、国旗降納がおわり夕食になりました。この日の夕食はナンで食べるカレーでした。ナイトプログラムで天体観測をしました。流れ星がたくさん見られる日だと説明がありました。僕は流れ星を3 つくらい見つけることができました。この日の夜はボーイ隊のスカウト会議に参加させてもらい、ボーイ隊のA 型テントで寝ました。ボーイ隊に上がるとキャンプは毎回このような会議があるのだなと改めて思いました。

4 日目、5 時半くらいに長谷川リーダーが起こしに来てくれて宿舎に戻りました。そのあとは廣瀬リーダーと一緒に朝の散歩に行きました。戻ってきて朝食をとり、スタンプの練習をしてハンモックに乗りました。そのあとバーベキュー大会がありました。流しそうめんも食べて、フランクフルト5 本と、とうもろこしを4 個食べました。それとスイカ割りをしている姿をスイカを食べながら応援していました。ビーバーやカブが終わり、ボーイ隊の先輩がやったらスイカは一発でグチャッと潰れました。新聞やスタンプの練習を済ませ、夕食を食べました。夕食を食べたら最後のイベントの

大営火をやりました。大営火の最初のスタンプはカブ隊でした。カブ隊では3日目のハイキングをテーマにしたスタンプをしました。紅白歌合戦や、ベンチャー・ローバー隊のスタンプなどが楽しかったです。大営火のあと叙任式がありました。木下先輩がもうローバーだということに驚きました。そのあと宿舎に戻り、寝る準備をしました。寝るときに前のテントにいるビーバー隊に「困ったことがあったら言ってね」と声掛けをしました。

最終日の朝は5時半に起きて荷物をテントの外に出して、帰る準備をしました。朝食準備をして朝食を食べました。宿舎の最終点検などをして荷物をまとめました。閉村式をしたあとはホテルの食堂で昼食をとりました。11時過ぎにキャンプ場での最後の写真をバスの前で撮り、バスで出発しました。途中のサービスエリアでおみやげを買い、そこから町田まで向かいました。

今回の夏キャンプを振り返ってカブ隊最後の夏キャンプで楽しい夏キャンプとなりました。一番楽しかったのは大営火です。来年はボーイ隊として夏キャンプに参加するので今までと違うキャンプになるので頑張りたいと思います。



『カブ隊最後の楽しいキャンプ』

CS 隊 1 組くま 孫 賢奏 ニック

僕は今年の 9 月でボーイになるので最後の夏キャンプでした。

1 日目は新幹線で長野県まで行きました。長野県についたらバスで湯の丸高原にあるキャンプ地まで行きました。ついてから開村式を行ってから、舎営準備をして、新聞作り、ロープワークしました。8 の字結びと本結びと一重つぎとエビ結びをしました。とても楽しくて、ロープワークにハマってしまいました。そのあとは、夕食を食べました。1 日目の夕食はなんと、プレミアムバーガーセットでした！！ベンチャーとローバー達の先輩が作ってくれました！（うますぎでした）

2 日目は登山がありました。湯ノ丸山に登りました。とても大変でした。ですが、途中で牛に会って面白かったです。牛と写真！取りました。山頂についてから休憩しました。2101mのありました！涼しかったです。僕と榎谷君は石を積み重ねました。僕は 13 個、榎谷君は 21 個でした。休憩が終わったら下りました。あんぶというところで“秘密のひろばで”秘密の昼ご飯“をたべました。秘密の昼ご飯を作る間にスケッチをしました。と思ったら本田リーダーが豚汁をこぼしてしまいました、、もう一回作り直しました。ところで、カブ隊の分しかありませんでした。しかも豚なしでした・・・それを飲み、無事宿舎に帰りました。帰ってからはスタンツのテーマを決めました。”三日目のハイキングです。“しんぶん作りとロープワークをしました。ロープワークでやったのは巻結びともやい結びと引きとけとエビ結びでした。夕食を食べたからナイトゲームをしました。ナイトゲームは光を当てられたら止まるというルールでした。僕は 1 回”宝“を盗みました。みんなで作戦を立てて楽しかったです。

3 日目はガーリックオニオンソースがかかったハンバーグでした。今日もハイキングでした。池の平湿地に行きました。大変でした。けどとても綺麗でした。木が低くて小人の世界みたいでした。宿舎まではすぐに帰れました。帰ったら新聞作りをしてスタンツの練習をしました。今日は流れ星観察がありました。僕は 7 個ぐらい見つけました。夜はボーイ隊が泊まっていた A テントで寝ました。せまくて寝づらかったです。しかも、らく君が夜なんか叫んで踊っていたので、さらに寝れませんでした！

4 日目、5 時半ごろに長谷川リーダーに起こされました。宿舎にもどって散歩に行ってから、僕はすこしロープで遊んでスタンツの練習をしてハンモックで遊びました。楽しかったです。その後バーベキューをしました。僕は豚肉と牛肉を沢山食べました。美味しかったです。流しそーめんもしました。その後はスイカ割りを応援しました。海利先輩がスイカを潰しました。凄かったです。新聞とスタンツをして夕食を食べました。最後のイベントは大營火でした！火がマジックみたいにつきました。スタンツやゲームをしました。

5 日目は 5 時半ごろに起き、帰る準備をしました。朝ごはんを食べて宿舎の点検をし、閉村式を行いました。その後ホテルでカレーを食べて、バスに乗りました！とちゅうのサービスエリアでお菓子を買って、帰りました。

今回の振り返りは、自分で自分のことをできたことと、みんなで活躍できたことだと思います。

『夏キャンプの思い出』

CS 隊 1 組 市川 竜真

フランスに行く前の最後の夏キャンプ。

前の日はワクワクしてねむることができませんでした。

たくさんの思い出があるけれど、1 番うれしかったことは溶岩石を見つけたことです。山を登ってつかれたときに、目の前にあらわれて見つけました。

溶岩石があったから、がんばれました。溶岩石は初めは真っ赤で熱くてすごくきれいだったけど、家に帰ったら白くなってしまいました。

今もつくえに大事にかざっています。

また、1 番思い出に残っている事は、みんなで大營火をしたことです。特に隊長たちのスタンプが面白かったです。理由はたくさん笑える部分があったからです。

ぼくたちのスタンプもうまくいったと思います。ほんとに山に行ったみたいにリアルにできました。次の夏キャンプでは、もっと良いスタンプをやりたいです。

最後に 1 番感動した事は、せんぱいたちが毎日おいしい料理を作ってくれたことです。うれしかったです。とても心がこもっていました。

自分たちもいつか、こうはいにやってあげたいと思いました。

ぼくは今パリにいます。いつかもう一度ずっとボーイスカウトにいたいです。

特に潮干狩りが 1 番思い出にのこっています。

またみんなに会えることを楽しみにしています。



『夏休み 2025』

CS隊ゲスト 祁徐 楽

まずひこうきでとうきょうはねだについたときはもうまよなかでした。だからホテルで一ぱくして次の日は本をかってキャンプへしゅっぱつしました。キャンプの一日めはみんなでやまのぼりをしました。とてもけわしいやまみちだがぼくは一番のりでした。だがもっとけわしいのはくだりでした。みんないっかいはころんでいたがりました。そしてここのごはんはみんなせんぱいのてづくりです。

	8月10日 荷物を預けました 8月12日 キャンプ場にしゅっぱつ。 登戸、乗り換え 新宿、乗り換え 大宮、新幹線に乗り換え。あさま611号 新幹線のなかで弁当食べた 佐久平到着 佐久平 より送迎バスにて湯ノ丸スキー場の湯ノ丸高原ホテルへ。 テントを以前から張ってもらった（室内） テント領土分け(笑) 新聞作り、ロープワーク 夕食（ハンバーガー（手づくり（先輩の））） 健康調べ 寝る	
--	--	--

8月13日

二日めはまたもや山のぼりそして今回はもっとけわしいみちでみんなフーフーハーしてつかれていました。でもむかしの火山へのぼりきれて火山岩をてにいれました。そのあとはまたもやけわしい下山そしてひげきがおこりました。せんぱいがつくっていたとんじるが 95%こぼれてしまった！！そしてみんなはのこった 5%をのむことしかできなかった。そしたらみんなで三日目にそなえてねました。



	8月15日 AM:6:00 おそめにおきました。 7:00 あさごはん 9:00 すたんつのれんしゅう。 くみちょうがふざけてみんなわらいました。 11:30 BBQ ながしそうめんややきとりもあってたべました。 PM 1:30 ごむてっぽうをつくりました。 2:30 すたんつのれんしゅう 7:00 すたんつほんばん まずはぼくたちのじゅんばんなのでめちゃくちゃ きんちょうしました。 9:30 ねる 8月16日 AM 5:25 おきた。そしてすぐにもつをまとめてしゅっぱつするじゅんびをしました。 8:30 ちょうしょくをたべているさいちゅう。そのあとは11:00までじゅうじかん。 11:00 ひるごはんにいく。かれーライス、そのあとばすで町田まで。 3:02 かいさん おわり	
--	---	--

8月15日

三日目のお昼は BBQ やながしそうめんをたべました。そして、ばんごはんはそばとてんぷら。それが終わったらかきひのまわりをかこんでみんなのだしものを見せ合いました。

そのつぎの日はかえりました。たのしかったです。

夏キャンプは都合により欠席しましたので
春舎営の作文をご紹介します。

『春舎営』

CS 隊 1 組 吉田 侑史

愛川ふれあいの村に行きました。

1 日目

行っていると中は大へんでした。でもついたらうれしかったです。ヒルのことも知ってベンキョウになりました。ディスクゴルフもとっっても楽しかったです。おにぎりもおいしかったです。中に入れることになったら「わくわく」しました。中に入ると「広いな」と思いました。

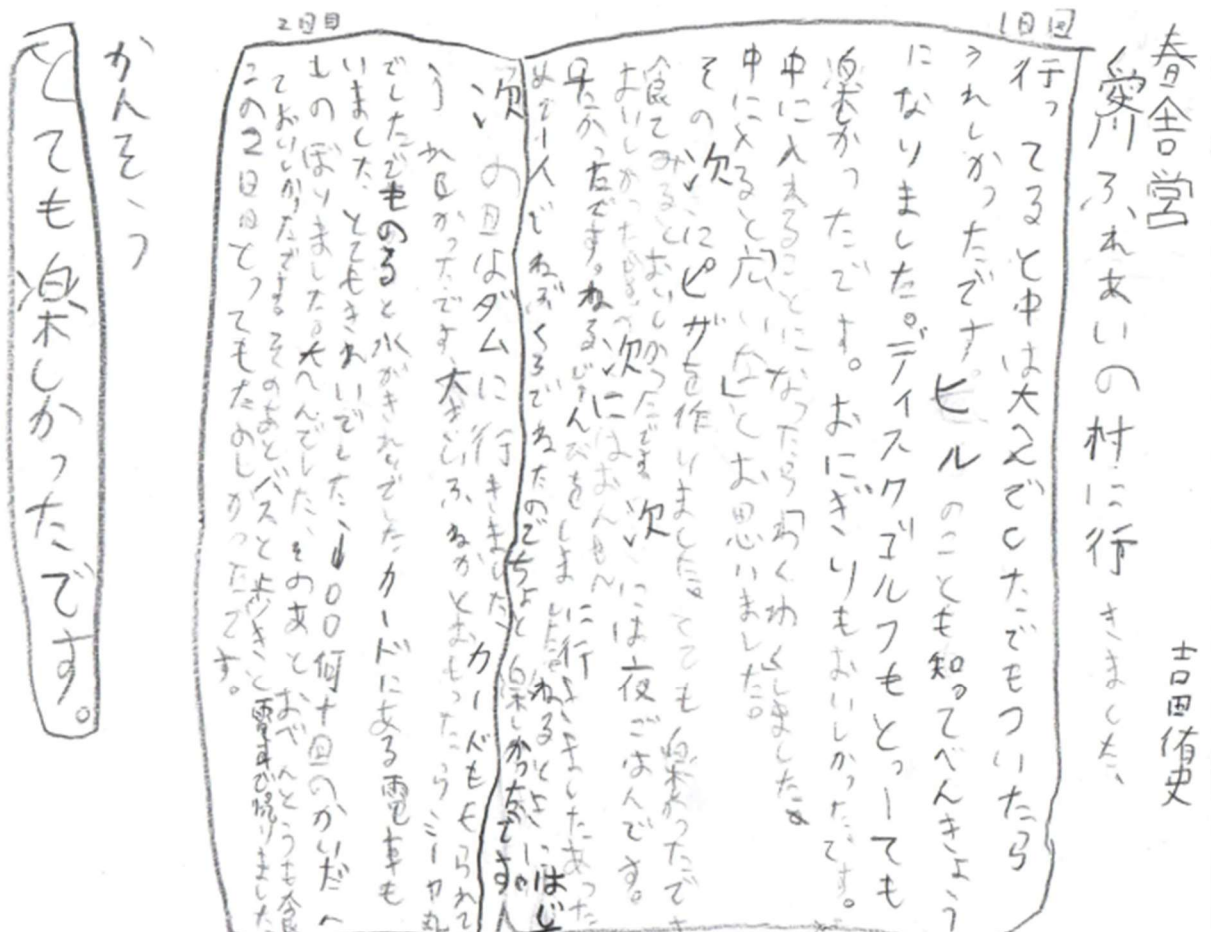
その次にピザを作りました。とても楽しかったです。食べてみるとおいしかったです。次にはおんせんに行きました。あったかったです。ねるじゅんびをしました。ねるときにはじめて 1 人でねぶくろでねたのでちょっと楽しかったです。

2 日目

次の日はダムに行きました。カードももらえてうれしかったです。大きいふねかとおもったらミーヤ丸でした。でもものと水がきれいでした。カードにある電車もいました。とてもきれいでした。100 何十回のかいだんものぼりました。大へんでした。そのあとおべんとうをたべておいしかったです。そのあとバスと歩きと電車で帰りました。この 2 日目とってもたのしかったです。

かんそう

とても楽しかったです。



『なかま 2025』

町田第13団 ベンチャー隊 佐々木 永遠 (PDF を転載)

あの夏キャンプの大きな通信塔を建ててから早一年。今年はさらに、ベンチャースカウトの活動を通して、計画の大変さや自然の厳しさ、仲間との協力の大切さを身をもって感じた。

去年の夏キャンプを終え、その後に活動した大きな活動は雪中キャンプである。マイナス20度、雪が積もっている山の上で行うキャンプはどれも初めてで新鮮なものだった。雪山で重い荷物を背負いながらキャンプサイトを目指す道のりは、今でも鮮明に覚えているほど大変だった。しかし、その厳しさの中でも自然の美しさを感じる瞬間があり、挑戦の中でしか得られない充実感を味わうことができた。こういった大変さを経験したからこそ、できることが増え、さまざまなことに挑戦する自信につながった。

今年からは先輩がローパー隊に上進し、後輩が入ってこなかったのも同期とだけの活動となった。そこで同期だけで活動を進める難しさを痛感した。高校生といえど進路や生活リズムはそれぞれ異なり、長期休みの時期やテスト期間も違うため、予定を調整するだけでも苦労をした。それでも一年のまとめである夏キャンプでは、各自がやりたいことを企画し、それぞれの個性を生かした活動にすることができた。違いを認め合い、活動の中で強みに変えていくことの大切さを学んだ。

今年もいろんなことにチャレンジすることができた。

測量章と森林保護章の二つの技能章の講習会に参加し、専門的な知識を得るとともに、他隊からの刺激を受けることができた。これらの経験を隊の活動に新しい視点として取り入れ、より高みを目指した活動をしていきたいと思う。

去年と比べて計画力が成長したと感じる。去年と比べて計画書に対して慣れができたからこそ、必要な情報を整理してまとめ、冗長にならない計画書を作れるようになった。まだまだ計画書に関しては懸念がある。これからはより良いキャンプを目指していくためにも、「そなえて」いかなければならないと思う。

さらに、判断力も大きな成長の一つだ。今年は自分たち同期のみで判断しなければならず、その中で相談し、悩み、決断をする場面が多かった。特に5月キャンプでは、風が強く、スペースが限られている中、大営火を行うかどうかの判断が委ねられた。どうしたらカブスカウトに安全に楽しんでもらうことができるのか。難しい判断だった。リーダーや隊長の力を借りつつ自分たちなりの結論を出した。後輩のために、安全を第一に考慮することを忘れずに、他のイベントにするという判断ができた。

これらの技能はこれからは「ベンチャースカウト」として欠かせない力だと実感した。

活動を通して、自然の美しさや、それに触れることの楽しさを改めて実感した。

雪中キャンプで見た一面の銀景色はとても綺麗だった。あの日は隊長が何度も教えてくれたようにとても天候に恵まれていた日だった。全員で登頂できたのも天気が良かったのも奇跡の連続だった。また今年も違うメンバーで、あれを超える違った景色を目指していきたい。

夏キャンプで歩いた湿原の広がりや、どれも写真では伝わらないほど壮大だった。その途中の山道でも、剥き出しの岩肌や、淡い霧は美しかった。

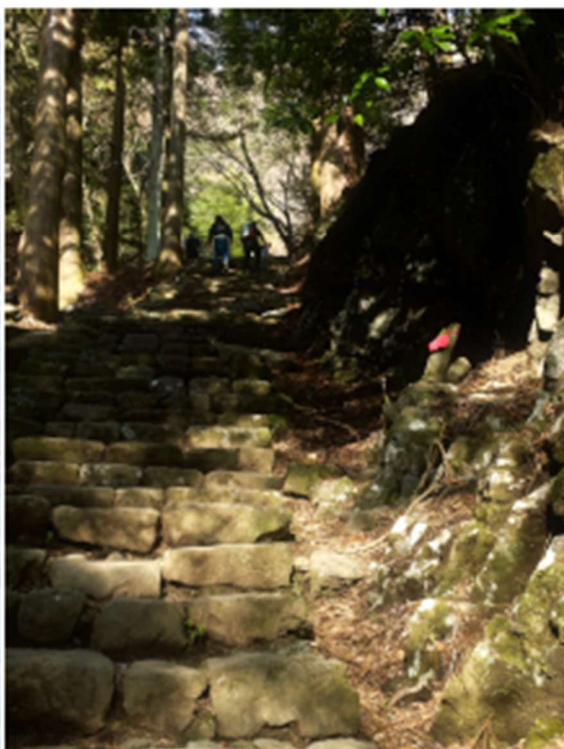
その他の活動でも、大山登山での山々や5月キャンプでの広がる海の景色を見ることができた。形には残せない儚いひとときだった。どの体験も、ボーイスカウト活動以外の慌ただしい生活を忘れてただ没頭することができた。

こうした自然の魅力を味わうことができるのは、スカウト活動の大きな楽しみの一つだと思う。これらの魅力を後輩や仲間に伝えるために、ベンチャー隊としてどんな活動や工夫ができるのかを考えていきたい。

来年は後輩という新しい仲間が加わる一方で、同期はそれぞれ進路に向けた準備が本格化していく。活動の形はより複雑になり、予定の調整や役割分担はこれまで以上に難しくなると考えられる。しかし、その中でも一人ひとりが自分の目標を見失わず、スカウトとして成長できる一年にしたい。後輩を迎える立場としては、これまでの経験を伝えつつ、一緒に活動を作り上げていけるようにしたいと思う。



↑雪中キャンプ
↓5月キャンプ



↑大山登山
↓夏キャンプ 湿原散策



『2025 年度夏キャンプでの挑戦、学び』

RS スカウト 木下 誠

今年の夏キャンプは、例年と異なる点が多かった。特にキャンプ地が特殊であり、充実した調理設備、広大な土地、高高度による涼しい気温など、比較的楽に生活が出来る環境であった。私は、例年の夏キャンプでは登山をメインに活動することが多かったが、今年はこの環境を生かし、調理に力を入れることにした。

ベンチャー隊もまた、調理に重きを置いていた。昨年まではベンチャースカウトとして活動していたことや、後半はローバースカウトが私だけとなったこともあり、ベンチャー隊と協力して活動することが多かった。この共同活動で特に印象に残っていることが、ハンバーガーの提供と、大営火である。

ハンバーガーは本来、ベンチャー隊とローバー隊で別で作る予定であった。しかし、偶然にもメニューが一致し、私がハンバーガーのバンズ作りに挑戦するつもりでいたため、ベンチャー隊のバンズも作る事となった。小麦粉を使用してイチから作成したバンズは、パン作りの楽しさや大変さを私に教えてくれた。そして、このバンズを使用したハンバーガーを、カブスカウトやリーダー達に”美味しい”と言ってもらえたことは、調理への自信に繋がった。偶然とはいえ、他隊の支援を行うことができ、自身の料理スキルも向上し、一石二鳥な活動となった。

大営火の運営は初めてであった。私とベンチャースカウト全員が、リーダーと確認を取りつつ、慎重に大営火のスケジュールを計画した。ここは上級スカウトとしてしっかりしないと、と思い、率先して大営火の準備を進めた。実際にスケジュールを決めていくにあたって、特に難しいと感じたことが3つある。1つが、どのゲームや歌を行うのかということである。ビーバー隊からボーイ隊、保護者やリーダーまで参加する大営火では、全員が楽しむことのできるゲームや歌というのは限られてくる。なので、どのゲームを採用するのか、どの歌が歌いやすいのかを考え、こういった順番で行うのかを考えることが難しかった。2つ目に、ベンチャースカウトとの連携があった。当然、私1人だけで大営火を運営することは無理なので、ベンチャースカウトにも企画を共有し、役割分担をする必要があった。しかし、ベンチャー隊とローバー隊の両方がフリーである時間は限られており、大営火前日まで詳しく話し合うことが出来なかった。このため、自分達のスタント練習に割く時間が減ってしまったり、猛獣狩りの動物など、細かい調整が本番までできなかったりと、時間のせいでアドリブになってしまった点が多々あった。なので、大営火の計画はできるだけ早めに行ったほうが良いと学んだ。3つ目が、時間の調整である。ゲームや歌に何分かかかるのか予想し、各隊のスタントにかかる時間を聞いて回った。ここで、ゲームや歌はほぼ予定通りに進んだのだが、リーダーのスタントにどれほどの時間がかかるのかを聞けなかったのがまずかった。他の隊が、3分や5分といった短時間であったことから、リーダーのスタントは5分として見積もっていた。しかし、実際は10分ほど続き、大営火も終盤であったことから、時間調整もしづらかった。それでも、前半でほとんど時間通りに進められたことで、数分の超過で済んだため、初めての大営火運営としては良くできたと思う。今後は時間調整のできるゲームや歌を、多めに後半に配置していきたい。

大宮火のスケジュール計画だけでなく、火の神様も担当した。ワイヤーの張り方や、火の付け方まで、何もかもが初めての挑戦であった。特に木の組み方に関しては、どうすれば少ない薪で石の衝撃に耐えられるのかという試行錯誤を、リーダー、隊長と共に何回も行った。結果、団委員長の手を借り、安定性と中心に着火という2つの条件をクリアした組み方を完成させた。1回毎に高いところまで登り、滑車を転がすという試行を、10回以上は行ったと思う。このせいで夕飯を作る時間も無くなってしまったが、本番は満足のいく着火ができた。そして、無事に着火できたという安心感と達成感を強く感じた。

調理において全体的に反省しないといけないと感じたことが、使用する食材が曖昧であったということである。自分達で買い出しに行く場合はスーパーで実際の食材を見て決めることが出来るが、今回は団委員長に買い出しに行っていた。なので、分量や調味料を正確に決めることがいつもよりも重要であった。また、実際に作ってみてから、あれがあるとちょっと良かったと感じたり、この食材はもっと少なくても良かったと感じたりと、後から後悔することも多かった。具体的にはクレープの具材が少なかったり、ハンバーガーにはトマトがあれば良かったと感じた。このような食材関係で、もっと本番を意識した食材、量を考える必要があると思った。

今回の調理で特にクオリティが高く、満足のいった料理が、ピザである。生地から自分で作り、打ち粉もつけて焼いた。この打ち粉がいい仕事をし、店に出されるような香ばしい生地となった。また、チーズもこれでもかという量を乗せ、ワイルドで食欲をそそる見た目と香りに仕上げることができた。また、初日だったこともあり、2日目以降の小麦粉を使った料理を作る自信にも繋がった。

4日目には、ボーイ隊の野外調理のサポートを行った。この日の朝食は、ボーイ隊のスカウトが決めたメニューであるアヒージョだった。ここでいくつか問題が発生した。1つが時間、もう1つが、アヒージョを食べたことがないスカウトが複数人いたということである。時間に関しては、アヒージョというメニューである以上、予想はしていた。そのため、朝は早くボーイ隊のところへ向かい、調理を始めさせたが、点検は遅れることとなった。そして、食事に時間がかかった理由が、もう1つの問題、初めてアヒージョを食べるスカウトがいるということであった。油に浸かった料理ということで、味が予想と違ったのだろう。案の定あまり好まれなかった。ボーイ隊のスカウト達も、キャンプでアヒージョはあまり適さないと学んだだろう。

この日の昼食が、私がこのキャンプで一番準備し、楽しみにしていたことであった。蕎麦打ちの道具を持参し、ボーイ隊に蕎麦打ちを教えた。作業のコツを言語化したり、どのような理由でこの作業を行うかの説明など、あらかじめ頭で考えていたため、スムーズに行うことができ、スカウトにも理解してもらうことができた。ただ、野外で調理するという事に問題があり、茹でる前に放置すると乾燥して、麺が干切れてしまったり、机が平らでなく、麺に切れてない部分が出来てしまったりした。他人に打ち方を教えるスキルを習得すると共に、野外で蕎麦打ちをする際特有のトラブルも知ることができた。

夕食は餃子であったが、作った皮同士がくっついてしまうというトラブルがあった。打ち粉不足が原因であると考えられ、かなり強くくっついていたので、剥がすのは困難であると判断し、諦めて1つの生地として巨大な餃子を作った。電子レンジやオー

ブンを駆使し、なんとか中まで火を通す事ができ、意外にも味は好評であった。この日はトラブルは多々あったが、ボーイ隊のサポートとして最善を尽くせたと思う。

最後に、夏キャンプ全体の感想、反省としてまとめると、今年の夏キャンプは初めての事が多かった。もちろん、例年も初めて挑戦する活動はよくあるのだが、今年は調理中心、夏のスキー場という初めて泊まる場所、大營火の運営といった、初の挑戦が多かった。新たな挑戦は楽しくもあり、心配なことも多い。そして、反省点も多かった。特に大營火に関しては、今後も運営をすることがあると思うので、今年経験したことをしっかりと今後に活かしたい。





⇒



⇒



⇒



⇒



⇒



大営火

火の神様が

火の玉を落として

大営火の開始です

⇒



※ 動画は BAND アルバム 榎谷禎子さんの 2025 夏キャンプ投稿写真参照



キャンプでいちばんたのしかったことをかいてみよう

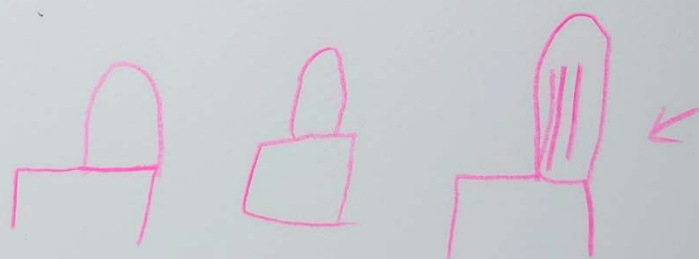
キャンプファイアです。

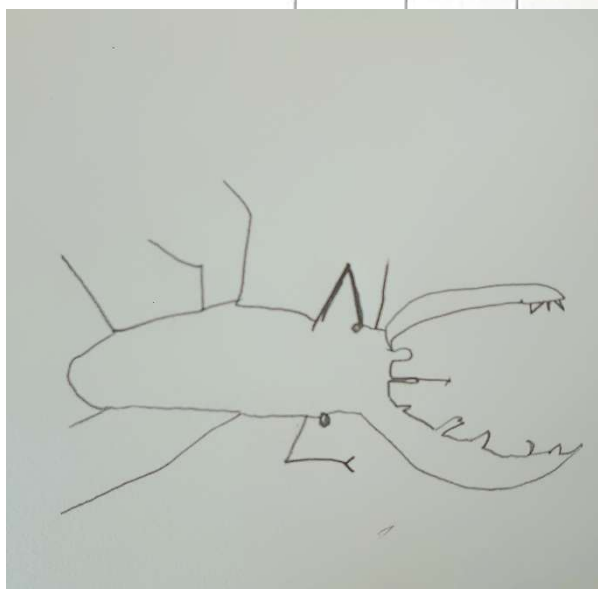
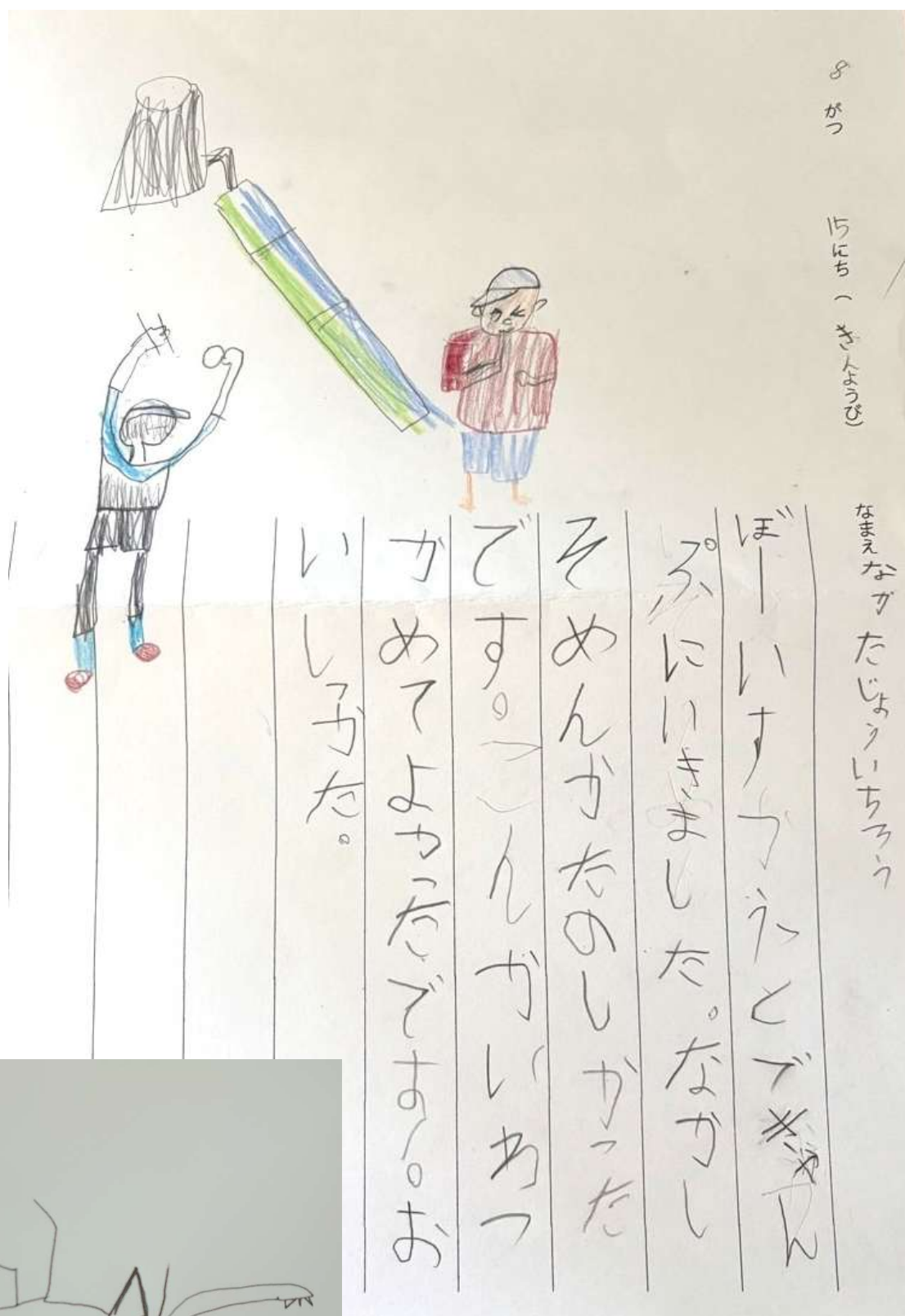


たつと

よ、わ、あ、り、ば、し、て、ぱ、ー、ま、し、た、

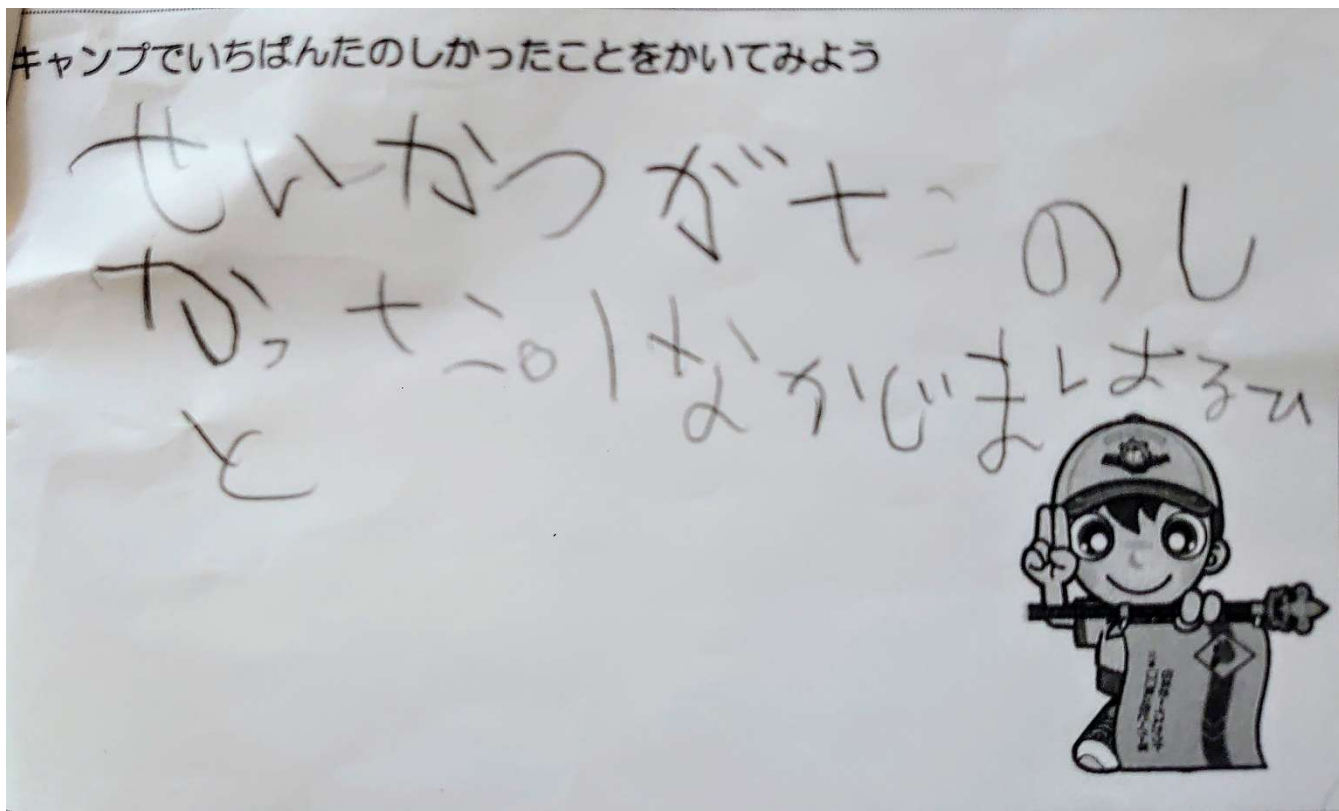
↑ たのしかったです。
よ、か、ち、い、す、と、り、げ、え、せ、ま、し、ま、し、た、





「キャンプスケッチ」

BVS スカウト 中田 丞一郎





訃報



元、町田第 13 団カブ隊長、ビーバー隊長、ボーイ隊長、ローバー隊長、並びに町田地区コミッショナー 今田直人様(享年 80 歳)におかれましては、去る 9 月 16 日にご逝去されました。

生前の町田第 13 団、並びに地区へのご奉仕に感謝申し上げるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

正に永遠のスカウトとして皆さんの思い出の中に静かに微笑んでいらっしゃることを思います。